

難しいことはわからんが再現実験を支持する、という一般市民の方へ

阪大生命機能研究科・近藤滋

生命科学研究の内容が専門的すぎるので、STAP をネッシーに、理研 CDB を NASA に喩えて説明します。(NASA の人、ごめんなさい) どちらも、もし本当にあれば世界的に興味を引き、科学の歴史が塗り替えられること、間違いありません。

2011年1月、NASA の研究員が、ネッシーを発見しその証拠として体の一部を持ち帰ったと論文に発表しました。写真を見た専門家が本物であるとお墨付きを与えたため大騒ぎになり、雑誌、TV が特番を組んだりして、世間的话题をさらいます。総理大臣と会談する予定まで組まれるなど、発見者は一躍時代の寵児となります。

ところが、論文に多数のおかしな点が見つかります。ほとんど全て図に画像操作の跡が見つかりました。調査のデータは、ほとんど落書き程度のノートしかなく、しかも、「ネッシーを見た」のは、調査隊の中のただ一人だけであることも判明しました。その上、その発見者が3年前に書いた「雪男発見」という論文に載っている「雪男の足跡」の写真が、ネッシーの足跡として使いまわされています。それでも、その発見者は「画像の単純ミスはあったが、ネッシーはいます。」と主張し続けます。

NASA は、調査委員会を立ち上げましたが、動かぬ証拠であるはずの、持ち帰った「体の一部」については、どういうわけか「調べない」と宣言します。幸い、体の一部の細胞からとった遺伝子情報が論文に載っていたため、外部の人がそれを解析したら、ワニの細胞であることがわかってしまいました。

つまり、「ネッシーを見つけた」と信じる物は一切無い上に、インチキの証拠はいくつもあるのです。にもかかわらず NASA は、かなりの費用（原資は国民の税金です）を投じて、前回と同じメンバーの「調査隊」にもう一度ネッシー捜索に派遣しました。あなたは、この調査隊を信用し、税金を使って調査を続けることを支持しますか？

上の喩えで、以下のように置き換えると、そのまま STAP 事件の記述になります。

NASA > 理研

ネッシー > STAP

雪男 > spore like cell

足跡 > テラトーマ

ワニの細胞 > ES 細胞